

水稻品種「にこまる」の特性を活かした栽培技術

長崎県総合農林試験場 作物園芸部 作物科

長崎県でのにこまるの普及状況

平成16年度奨励品種採用。平成18年度生産開始。

作付面積: 18年200ha、19年500ha、20年1,000ha(予定)

①にこまるはヒノヒカリに比較して茎葉が伸長しやすい。また苗も徒長しやすく育苗時の徒長が本田での生育に影響することが懸念される。そこで、にこまるの育苗時の生育特性を明らかにした。

〔成果〕

にこまるはヒノヒカリに比べ、発芽勢および出芽勢が高く、苗も伸びやすい。にこまるの硬化開始時の苗長は2.5cmが最適である。

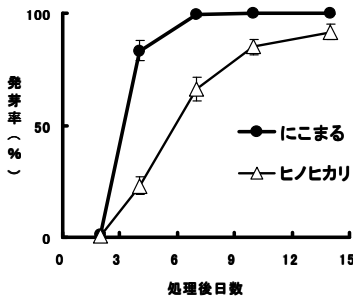


図1 発芽率の比較

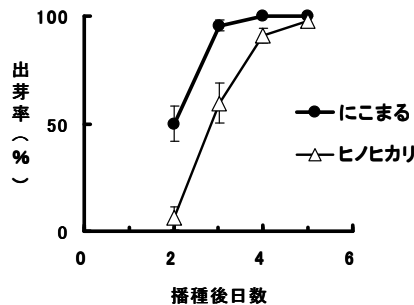


図2 出芽率の比較

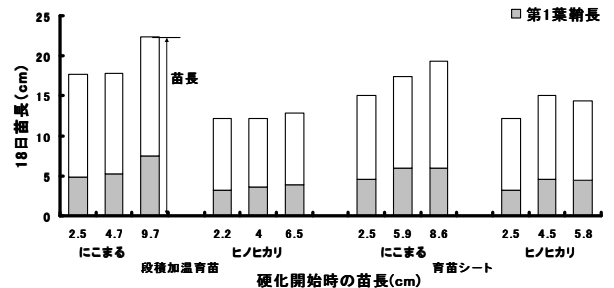
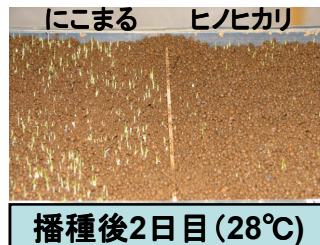


図3 硬化開始時の苗長と移植時の苗長および第1葉鞘長



②にこまるの登熟期間の気温と玄米品質との関係を明らかにした。

〔成果〕

にこまるは出穂後20日間の平均気温が27°Cをこえると背白粒の発生は増加するが、その程度はヒノヒカリに比べ小さい。

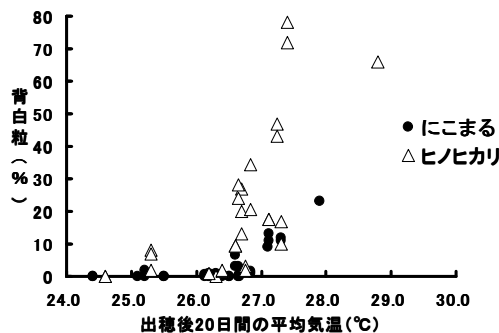


図4 出穂後20日間の平均気温と背白粒発生率との関係



2005年産米の品質比較(作況試験)